

第5回「三世代をつなぐ 駒カフェ」開催の報告

2021年10月16日(土)13時～15時、第1会議室において、在校生～保護者～OB 世代間 交流プロジェクト 第5回「三世代をつなぐ 駒カフェ (保護者対象)」が開催された。8月に続き連続で参加された保護者が2名、ご夫婦での参加が1組でした。スタッフも話の展開を想定して事前準備をしました。前半は全体で意見交換、後半は保護者が提示した具体的な課題について少人数のグループで意見交換をしました。

参加保護者 6名(中2:4名、高1:2名)

参加者の感想

- ① 息子との距離の取り方に日々悩んでいる中で参加させて頂きました。大先輩のお話をうかがってもう少し広い視野を持って子供を見守れるような気がしてきました。また、先輩からヒントを頂いたので久しぶりに息子を博物館に誘ってみようかなと思いました。今日はありがとうございました。
- ② 2回目の参加です。前回同様、楽しいタメになるお話を有難うございます！駒東に入学して刺激のある環境に身を置いて、色々と吸収して欲しいと思っています。駒カフェは私の精神的安定剤です。次回もぜひ参加させて頂きます！“また来たの？”とどうか思わずにお相手下さいませ。
- ③ 7回生の先輩方と平野先生のお話をうかがえてとても参考になりました。本人がどんなきっかけを活かして進んでいくのか見守っていきたいと思いました。また参加したいと思います。ありがとうございました。
- ④ OBの方々の経験談などとてもお参考になり、駒東の良さをより感じる事ができました。楽しい時間を過ごさせていただきました。



- ⑤ 前回8月にも参加させて頂きました。何に興味があるのか何をやりたいのか、子どもがあまり言ってくれなくなり、心配しておりました。先輩方、平野先生のお話を伺い大変勉強になりました。そっと見守る事も大切だなあと感じました。有難うございました。

スタッフの感想

- ① 保護者らとの懇談を通して、駒東生同志で数学の問題を出し合うとか、テーマ毎に先生役を決めて互いに教え合うとか、今の駒東生のたくましさがよく分かりました。また、特定分野を掘り下げるタイプや総合的に満遍なく確実に探究するタイプなど勉強スタイルもさまざまであり、保護者の方々にもいろいろな見守り方があることを知りました。こうした駒東生のたくましさや多様性をもってすれば、一人の日本人としてのアイデンティティーとともに、一人の地球人としてのアイデンティティーを掘り下げ、東邦大学の建学の精神である「社会に、人類に、地球に、学問や医療の実践を通して貢献する」ことを目指すことも充分可能ではないかと思えます。駒カフェがその一助になればとも思いました。
- ② 保護者の会は、毎回同じような話の展開になって、常連が出来ないことを心配しました。しかし、話題は似ていても、内容は少しずつ違うようで、私にも新鮮で楽しい会になりました。そこで、少し考えて見ました。人生を描くキャンバス。まだ白紙の部分が多い生徒さんのキャンバス。半分近くを描いて、絵の全容が見えてきた年代。書き損じが気になって修正を試みている年代。「駒カフェ」は、自分のキャンバスに描いた人生という自作作品を見せ合いながら、美術談義をする場であると思えます。生徒さんのキャンバスに、色付けをすることは出来なくても、表現の助けや色合いの相談はできると思いました。常連の方、初回の方、それぞれが持ち寄る自作作品を前にして、楽しく有意義な談話ができる場、「駒カフェ」であれば、考えました。今回もご参加いただいた皆様に感謝です。また、お目にかかれますように。
- ③ 保護者のお母さま4人 保護者であり25回生のKさんご夫妻 併せて6人が参加してくれました。和やかに楽しく進行し ありがたいと思いました。私は駒カフェがうまく機能してくれるかどうかいつも気になっています。参加してくれる人がなにか楽しい思いをしてくれればそれだけでいいと思っています。それは達せられたかとホッとしています。おおむねの駒東生は学習もクラブ活動も上手にこなし友達同士助け合って成長していきます。でもそこから漏れてしまう生徒も少なからずいます。そういう生徒たちのためにもこの駒カフェが機能しなければと思っています。
- ④ 初参加の人も、リピーターの人も興味を持てる展開だったと思います。しかしながら、次回以降については、シナリオが必要だろうと思います。生徒達が得意科目について先生役を務めたり、オタクになって更に先へ進んで行ったりするケースを知り、さすがだなと感じました。教える事と教えるのでは大きな違いがあり、教える事によって視線がより広くなり、理解も深まると思えます。何かを知るためには「どこに目指す情報があるのか？」または「誰が目

指す情報を知っているのか？」を知らなければなりません。上記のような生徒たちの関係確立は重要な事の一つになります。以上のような事を纏めていけば、他の人達にとっても重要なヒントになると思います。未だ知らない人達にとっても役に立つ事をノートしていきましょう。

- ⑤ 第5回の経験から、生まれた想いです。私の駒東時代、葛藤の連続だったのだとの想いにたどり着きました。誰でも同じことでしょうか、唯一のトップから、エリート集団の真っ只中には入りこみ、もがいて過ごした6年間。そして、私の場合、プラス2浪の体験が私の成長を決定づけたとの想いにいたりしました。駒カフェは、たまたま、70歳で、過去を振り返ったとき、駒東のカウンセラーをさせて頂いており、直接、彼らの葛藤に接しており、半世紀前の自分の姿を回想出来るチャンスをいただき、さらに、平野校長の独自の教育感に接し、膝を打つ経験を頂き、この人となら、駒東生が大らかに葛藤出来る世界を醸せると、感じたことが始まりです。神は、わたしを認めたまひ、4人の仲間を使徒として遣わせてくださいました。わたしたち、6人は今後駒カフェがどう展開しようと、駒カフェの動かぬ原点だと感じた次第です。わたしの私見。葛藤のない人生は、あり得ない。困難な葛藤は人を磨き、大らかな生き様に仕立て上げる。十分なひとの微笑みは、これを達成させる。
- ⑥ ご参加してくださった方から「一人で参加申し込みをすることに勇気が必要だった」とうかがいました。私たちの「駒カフェ」は、街中にある喫茶店のようにぶらりと立ち寄ることができて、居心地の良い空間で、店主やスタッフと会話を楽しみ、カフェから帰るころには、笑顔になり、何か生活のヒントをつかむことができるようにしたいです。異なる学年の保護者同士で話をしたり、OBからの経験を聴いたりすることで発見できることがあると思います。スタッフも保護者のみなさまから新しい視点からの気づきをさせて頂きました。ありがとうございました。

【今後の予定】

11/20(土) 第6回駒カフェ (在校生対象)

12/11(土) 第7回駒カフェ (保護者対象)



「三世代をつなぐ駒カフェ」運営事務局

代表 黒岩 誠 (駒場東邦7回生 / 前スクールカウンセラー)

平野 勲 (駒場東邦中学高等学校 特別顧問 / 前校長)

連絡先 komacafe1540001@gmail.com